

絵との対話を育む鑑賞指導

ー第4学年題材：「6人の絵かきさん」の実践からー

阿比留 時 彦

1. 研究課題

平成9年度の研究紀要¹⁾では、中学年の子供たちが絵を見る活動を楽しむために、どのような絵をどのような方法で鑑賞していけばいいのかを中核として、絵画の持つ魅力を掘り下げていく展開を試みた。

その中で配慮したことを大きく3つ取り上げてみる。

一つには、前述したように、絵を見る活動そのものを楽しむことである。子供たち一人一人が、絵を見ることは面白いな、絵を見て、みんなと感想を述べ合うのは好き、ということにつながってくれることを願った。そのためには、まず絵に対する自分なりの感想を持つことを大切にしようと考えた。確かに作者の絵に寄せる願いやその時の心情あるいは時代背景などを知識として持つことは絵を深く理解するために大切なことである。しかし、指導者が仮に先走った知識を与え、子供たちが一般的な価値を理解したところで何が残るだろうか。受身的で絵から距離を置いてしまう子供の姿が残ったのではマイナス要因のみがクローズアップされてしまうことにもなりかねない。それより、絵を見た生の感想を大切にしながら、子供の感情に寄り添いつつ、子供の実情に添った形で知識の与え方を模索することの方が、子供と絵との距離を縮めることになり得ると考えられる。そこには例え、絵を描くことが苦手でも、絵を見て話し合うのは好きという感情が生まれることも十分予想される。また、ある子にとっては、1枚の絵との出会いが貴重な体験となる可能性もある。

絵を自らの感情を通して直接的に捉え、互いの感想を交流していくことから、自分なりの鑑賞への関心や絵に対する感情の膨らみをつくってほしいと考えてみた。

二つには、絵の選定にあたり、画家のものを活用したことである。その理由として、子供たちの見方そのものに広がりや深まりを与えてくれるのではないかと考えたからである。大人の、しかも画家の絵であっても、描くという行為においては、子供たちとなんら変わることはないこと。その一方で、真摯に絵と向き合う姿(=生き方)を感じ取ってほしいと願った。そうした意味において、写実的な絵より想像を膨らませやすい絵を活用し、多様な見方ができ、絵の中に入り込みやすいものの方が互いの感想を自由に述べ合えろと考えた。また、画家の絵を取り上げるのは、中学校での美術鑑賞へと発展する有効な手立てにもなると捉えた。

三つには、鑑賞活動を表現活動と結びつけることを意識した。ただし、子供たちの表現活動に役立てるために絵を見るという考え方から、より深く鑑賞するために表現活動を活用することを意図した。この時期の子供たちがそうであるように、本校の子供たちも活動意欲に富み、個々人の活発な発露を求める実態がある。このような中であって、数時間のまとまりを持つ一題材として、鑑賞のために表現を活用することは無理のない活動であろう。

本年度は、このような昨年度の配慮事項を踏まえ、上述の一つめ二つめの視点を主な課題として引き継ぎ、実践研究を行ってみた。なお、三つめに挙げた鑑賞と表現との関連は、今回は鑑賞活動のみに絞り込む試みを行った。

2. 実践題材：第4学年『6人の絵かきさん』から：東雲ホール（多目的ホール）

(1) 子供たちへの事前調査：4年1組37人（内1人欠席）

本題材に入る前に、鑑賞活動への関心を知るために、以下の事前調査を実施した。

- ◆ あなたは美術館へ行ったことがありますか。 はい 36人 いいえ 0人
 (*低学年の遠足では、現代美術館へも足を運ぶが、これも回数に含まれている。)
- ◆ どの美術館へ行ったことがありますか。また、だれと行きましたか。(複数回答あり)
- | | | | | | |
|---------|-----|---------|----|-------|----|
| 現代美術館 | 35人 | ひろしま美術館 | 8人 | 県立美術館 | 8人 |
| 平山郁夫美術館 | 2人 | など | | | |

学校から	36人	家族と(父母・妹・祖母など)	20人
友達と	7人	など	

- ◆ 何回くらい行ったことがありますか。

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	10回以上
8人	7人	6人	2人	4人	0人	0人	8人

- ◆ どうして行ってみようと思いましたか。(複数回答あり)

- | | |
|----------------------|---|
| ○自分で興味があつた | 21人 |
| ○家族の人が好きで、つれていってもらつた | 16人 |
| ○先生の話に興味がわいた | 16人 |
| ○配られた割引券があつた | 8人 |
| ○その他 | ・学校から行つた
・友達に誘われたから
・ポスターが貼つてあつて面白そうだった
・絵が好きだから
・家が近いから
・旅行の時
など |

- ◆ また、行つてみたいと思ひますか。その理由も書きましよう。

【はい】 26人 【どちらでもない】 1人 【いいえ】 9人

【はい】と答えた中から

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ・いろいろな作品を見てみたいから | ・美術が好きだから、いいものだから |
| ・世界の美術を知りたい | ・絵のかきかたのいろいろな技を知りたいから |
| ・行くといろいろなことが分かるから | ・見に行つてきれいだったから |
| ・何回行つても「すごいな」と思ふ | ・行つたことのない美術館に行つてみたい など |

【いいえ】と答えた中から

- | | | |
|------------------|-----------------|----------|
| ・美術館以外にも楽しいものがある | ・楽しくなかつた | ・興味がないから |
| ・いい絵がないから | ・行きたいけどなかなか暇がない | など |

(2) 題材の概要

① 題材について

絵に親しむと、自分を見つめる様々な感情を喚起してくれる時がある。また、美術作品がその時代を背に生きた作家の感情、作品に寄せる願いなど多くのことを語ってくれる時がある。一枚の絵を鑑賞することで、画家のその絵に寄せた時空を共有することができると思ふのは欲張り過ぎだろうか。

今年は、ピカソ没後25周年に当たる。この地でも企画展が催され、改めてピカソという人の魅力に引き込まれる。子供たちもピカソという名前や変な絵を描く人というのはよく知っている。しかし、彼の表現の変遷を知ることは少ない。今回、ピカソのいくつかの作品を通して、絵を見る楽しさを伝えたいと考えてみた。また、絵を描くことを通じて自分の「生」を追い続けたピカソその人のことも感じ取つてほしいと思つている。

本学級に実施したアンケートによると、2年生時に遠足で現代美術館に行つた体験がある。美術館へ出向いた回数では、この体験も含め半数強は3回までだったが、10回以上も8人いて、自分を含めた家庭の美術への関心の高さを示す解答も見られた。美術館へまた行きたいと思ふ子供が7割

以上あり、今後とも、学習や家庭への紹介を通じて、造形作品を見る機会も大切に扱っていきたいと考えている。本学級で鑑賞の時間を単独で行うのは初めてだが、本時の学習展開には、ひろしま美術館所蔵の作品も取り入れているので、本物にも接してほしいものである。

② 学習のねらい

ア 絵に親しみ、自分なりの見方ができるようにする。

イ 友達と感想を交流しながら、自由な絵の見方を楽しむことができるようにする。

③ 学習の展開

第1次 6枚のピカソの絵に親しむ。……………1時間（本時）

第2次 ピカソの絵を1枚ずつ鑑賞する……………ショートタイム

第3次 6枚のピカソの絵を再度、鑑賞する。……………ショートタイム

（*図工科の時間の最初に20分程度のショートで鑑賞タイムを設ける。）

仮説	パズルやワークシートの活用を行い、絵との関わりを設定するならば、自分なりの見方や友達との交流を通して、絵に親しむことができるであろう。
----	---

3 題材における学習の実際

(1) 本時の意図

本授業は、子供たちが絵に親しむ心情を培うことをねらいとしている。その手だてとして、様々な表現形式を模索し、自らの思いを伝えようとし続けたピカソの絵を取り上げてみた。まず、導入ではグループごとに絵解きパズルを行い、キュビズムの面白さに触れさせたい。そしてこの絵をみんなで見えていきながら、見方の自由さに触れたい。次にピカソの5つの作品の中から各自1枚を選び、その絵を自分なりの見方に沿って鑑賞する場を設定した。その際、見る手がかりとして、ワークシートを活用し、絵との対話の促進を図ろうと考えてみた。限られた時間枠で、できるだけみんな感想交流する場を持ちたいと考えてみた。

(2) 本時のねらいと評価の観点

本時のねらい

絵に親しみながら、自分なりに絵と対話することができる。

評価の観点

子供たち自らが興味を持って絵に接し、絵との対話を図ることができているか。

(3) 学習の流れ

学習活動	みとりの視点	教師の働きかけ
(本時の活動)		
1 6枚の表現形式の違う絵を見る。 ・「泣く女」(ロンドン:テートギャラリー)のパズルをグループ単位で行う。 ・「泣く女」をみんなで鑑賞し合う。 ・5枚の絵を自分の選択によって鑑賞する。	◎6枚の絵を見ながら、そのよさや美しさなどに親しむことができているか。 ○グループ活動に進んで参加し、解体 ・組み合わせを自由に楽しもうとしているか。 ○自分の感じたことを言葉で表現できるか。 ○1枚の絵を選び、ワークシートに沿って絵との対話が行えているか。	1 グループと個別の活動を行い、雰囲気づくりと見通しを考慮した鑑賞の場を設定する。 ・解体、組み合わせを自由に楽しめる「泣く女」(キュビズム作品)の16均等分割したパズルを行う。 ・「泣く女」の鑑賞の視点として、以下に続く個人鑑賞の視点で見えていく。 ・個人鑑賞は、ワークシートを活用し、5枚の絵から選択する。 ・全ての絵がピカソ作品であることを知る。
(授業後の活動)		
2 6枚の絵を1枚ずつ鑑賞していく。	◎自分なりの感想を持つとともに、友達との感想を聞くことを楽しんでいるか。	2 1枚ずつの絵をみんなで見えていく中で、絵との対話を育むようにする。

<p>(*この活動は週時程の学習の始めに鑑賞タイムとして20分程度で実施する。)</p> <p>・「泣く女」の補説／酒場の二人の女／貧しき食事／子供を抱く女／子羊を連れたポール／洞窟の前のミノタウロスと死んだ牝馬</p> <p>3 学習終了後の感想を書き留める。</p>	<p>○友達の発言と関わりながら作品全体や部分から受ける印象を捉えようとしているか。</p> <p>○画家の、作品へ寄せる思いや願いを感じ取ろうとしているか。</p> <p>◎導入とまとめ段階で、子供の感想に変化が見られるか。</p>	<p>・個々人の鑑賞時間を設けると共に、1の活動で個々人が選んだ作品の感想を元に、全員で意見交流する場を設け、いろいろな見方でできることを引き出す。</p> <p>・作品の描かれた背景を補説的に行う。</p> <p>・取り上げる絵に関連する絵やピカソに関連する絵本の紹介などを行う。</p> <p>3 学習してきた絵を年代順に並べ、ピカソが絵を通して自分を表現し、思いを伝えようとした人であったことを伝える。</p>
---	---	--

(4) 主な教師の働きかけと学習活動

次に示すのは、上述の学習の流れの中の1の活動の様子である。

教師の働きかけ	子供の活動
<p>○めあて、題材名の確認</p> <p>・いつものように心の中で絵に話しかけてみましょう。どんな言葉が返ってくるかな。</p> <p>・「6人の絵かきさん」の1枚目は、みんなで見ていきます。グループごとにパズルで絵を完成させてみましょう。</p> <p>○(分解、合成のキュビズムの本質を子供たちは遊びの感覚で楽しんでいる様子を見ながら)</p> <p>「面白いね」「実がいい」</p> <p>○各グループが完成させたパズルを一斉に提示。3枚原画と違うものあり。</p> <p>組み替わっている絵の面白さを伝える。</p> <p>○(実物投影機にて原画の提示)</p> <p>・「誰の描いた絵だと思う」</p> <p>・「心の中で話しかけてみましょう」</p> <p>・「この絵を見て思ったことを言きましょう」</p> <p>・「何か、音や声が聞こえそうですか？ 聞こえるとしたら、どこからどのように聞こえますか？」</p> <p>・「何という題名だと思いますか？」</p> <p>・「『泣く女』という題名ですが、重ねて聞きますがどんなところで分かりますか？」</p> <p>・「どうして泣いているんだと思いますか？」</p> <p>「この白い玉は？」(一部分を指し示して)</p> <p>・「この絵を家に飾りたいと思いますか？」「そのわけも言ってみて」</p> <p>○(5枚の絵の個人鑑賞)</p> <p>・これからは自分で、5枚の絵をゆっくりと見て回ります。そして、1枚自分で選んでワークシートに書き込んでいきましょう。(内容は、『泣く女』の発問と同じ)</p> <p>・これらの絵はどれもピカソさんの絵です。3枚は</p>	<p>・(イーゼルにペールのかかった5枚の絵、前にはパズル用の台が10枚)眺めている。</p> <p>・(『泣く女』:16個の均等分割ピースをグループ活動)</p> <p>・3分程度で仕上げた所、苦勞しながらピースを組み替えている所あり。</p> <p>「先生、できた」「むん、難しい」等</p> <p>・早く仕上がった所の中に、1ピース抜き出し、自由に組み替え、楽しんでいる所が出る。数グループに波及。</p> <p>「へんなおばさんみたい」「先生、こんなのどう？」</p> <p>・「ピカソ」</p> <p>・「まゆげが下がっているから困っているみたい。」「かくかくして、人間じゃないみたい。」「ロボットみたい」「女の人が失恋して、彼を返してー」</p> <p>「失恋して、ハンカチをかんで、くやしー」(動作化もあり)</p> <p>・「部屋の外で雨の音」「部屋を通り抜ける風の音」「広い部屋でひとりぼっちでシーンと静か」「静かな音楽が流れているみたい」</p> <p>・「ロボット人間」「失恋」「泣いている女の人」「ハンカチをかむ女の人」</p> <p>・「目の中が光っているみたい」「ハンカチをぎゅっとかむ所」「気分が悪くて、口の周りが青白い」</p> <p>・「彼氏とけんかした」「歯が痛いから」「夫と子供を戦争で亡くしたのかも」「涙が流れている」</p> <p>【飾りたい】「有名人の絵だから」「母が好きだから」「絵が好きだから」「色とりどりできれい」</p> <p>【飾りたくない】「夜、トイレに行くのが怖い」「不気味だから」</p> <p>・各自がゆっくりと見て回り、1枚の絵の前で立ち止まったり、座ったりして書き始める。</p> <p>(静かにじっと見つめている子、友達と話しながら見ている子、もしかするとピカソの絵かな?等)</p> <p>【人気のあるものから】</p> <p>「子羊を連れたポール」「洞窟の前のミノタウロスと死んだ牝馬」「子</p>

ひろしま美術館に本物があります。91歳で亡くなる前の日まで絵筆を握っていたそうです。

を抱く女』『貧しき食事』『酒場の女』の順
・静かに聞き入る。

4 考察

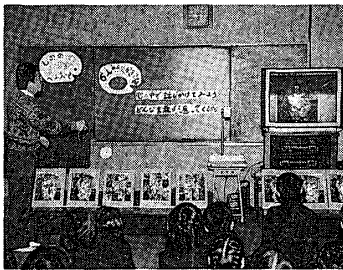
本実践を授業仮説に照らして考察する。

(1) グループごとのパズルの活用について

今回、教材として提示した『泣く女』は、色彩の鮮やかさ、キュビズムの明確さなど、子供たちへのインパクトを考慮し、一連の作品群の中でも代表的な作品を用いた。最初のグループ活動では、笑い声とともに友達相互の会話や、完成させた後、さらに自由な活動への発展などが見られた。キュビズム作品は平面の中に立体を演出する画期的な方法である。子供たちは各ピースを自由に組み替え、分解と合成によるキュビズムの本質に感覚的な遊びを見いだしていたように思う。指導者としては、子供たちのこの遊びの発展を肯定的に行うことで、子供たちは一人の女性の顔を組み替える面白さを楽しんでいたと考えられる。

次に、絵を元にみんなで感想を持つ場を設定した。この活動は、既にグループ活動の段階でつぶやいていたものをみんなで共有することでもある。絵を自由に眺め、個々人の捉え方の違いや共通点から絵の持つ魅力の幅を広げ、深めることでもある。子供たちの感想を引き出し、全体と部分で子供相互の感想をつなげる活動を行う中で、見方を育てていくことでもある。この活動では、たくさんの意見交流がなされた。この絵の持つ内面的なものに触れる感想も多く見られた。ことに、戦争とのつながりを指摘した子供には驚かされたが、学習後に本人に確認したが、この絵を見たことはないと言っていた。

絵を見て感覚的に捉えた何かを言葉に置き換えること、或いはそれを友達と述べ合うことで絵に対する思いの定着や意識化が強化すると考えている。この授業の中では、時間的な都合もあり、子供たちから色彩への感想をつっこんで引き出せなかったことは残念であった。



(2) 個人鑑賞の場を設定したことについて

『泣く女』の学習後、個々人が5枚の絵の中から1枚を選び、同じ内容を記したワークシートによる書き込み活動を行った。この5枚の絵は、ピカソの生涯で特徴を有する時期を体現する作品でもある。その表現形式の違いのみでなく、ピカソの生きる上での、もがきのようなものでもある。もちろん、子供たちにはこちらからの一切の知識は与えてはいない。時間の都合上(10分/40分)、ゆったりと絵と向きあう時間がとれなかったことが残念であった。けれど、ワークシートの記述には、画家の内面を鋭く捉えようとする記述も見られた。

子供たちに人気があったのは、かわいい『子羊を連れたポール』と、面白そうな『洞窟の前のミノタウロスと

『6人の絵かきさん』
4年1組 名前 松藤えりさ

① 何がいてあるか、ゆっくりとみてごらん。
まん中には 牛(人間)が...
ほしつには 身(人)が...

1 この絵を見て、思ったことを書きましょう。
馬と牛人間がたたかっている。牛が死神で手の
あるほしつにすりこんでいる。おれは天国に行
ついでて何をしいるか考えている。下に書
1よ海女の寺は地ごとへ行くドアを開けてい

2 何か、音や声が聞こえそうですか？
聞こえたとしたら、どこから、どのように聞こえますか？
牛 あばれるな
馬 やめてくれ
牛の女 何をやっているの
寺 早くつれてこい

3 題名を考えてみましょう。
地ごとと天国

4 この絵を家にかざりたいと思いますか？ (はい) いいえ)
そのわけを書いてみましょう。
未来は糸盒を見るのはきだから家にもって帰って
もかんさつしたい。

死んだ牝馬』であった。4年生らしい実態なのだろう。

5 学習を終えて

(1) 題材終了後の感想から

一連の学習終了後に、以下のようなアンケートを実施した。

◆ これまでの鑑賞はどうでしたか。

楽しかった 24名 どちらとも言えない 12名 楽しくなかった 1名

◆ 主な理由（複数回答あり）

【楽しかった】

- ・いろいろなピカソの絵をみるのができた。・訳の分からないような絵や変な絵が面白かった。
- ・友達の意見や感想が面白かった。 ・話を考えたり、題を考えたりするのが楽しかった。
- ・いろんな絵のかきかたをしているのが面白かった。 ・いろんな考えを言うことができた。
- ・かきかたの違いを見つけるのが面白かった。 など

【どちらとも言えない】

- ・訳の分からない絵もあったし、興味をもった絵もあった。・どれがいい絵か判断できなかった。
- ・ずっとすわって見ているだけで、たいくつだった。 ・立体作品があればよかった。
- ・絵ができるまでの話が長く、意味が分からない。

【楽しくなかった】

- ・ほとんど飾りたくない絵だった。

◆ 学習の始めと終わりで見方に変化がありましたか。

- ・絵を見ていく内に面白くなってきた。 ・いろんな工夫をしているのが分かった。
- ・最初は興味がなかったけど、最後は他の絵も見たくなった。
- ・変な絵ばかりだと思ったけど、それぞれに意味があることや人生で悲しかったこと、うれしかったことを絵で表現していると分かった。・どの絵も気持ちがこめられているんだなと思った。
- ・ピカソは天才だと思っていたけど、話を聞く内に努力した人だと思った。
- ・いろんな人と出会いながら、その才能を生かして絵が変わってきたんだなと思った。
- ・その時その時の心の変化を絵で表していて、色づかいが変わっていることも分かった。
- ・始めは（すごいな）としか思わなかったけれど、ピカソさんのいろんな生活が分かって、もつと絵のよさを感じられた。・学習して、ピカソさんの気持ちが通じる見方になったと思った。
- ・なくなる前の日までかいていたなんてすごい。そこまで興味があるなんてすごい。
- ・絵にはいろんな見方があることを知ることができた。 など

(2) 今後の課題

前述の学習終了後の感想を見ると、鑑賞の時間を設定することで、その絵に対する見方に新たな親しみが生じている者が多く見られた。このことは、鑑賞を通じて、絵を見る楽しさの幅（例えば友達との意見交換や画家自身の生き方など）が出てきたこと、或いはまた、鑑賞そのものの意義を認めることができる。しかしその一方では、変化はとくにないとする記述も7名あった。このことは子供の感想にもあったように、座学としての授業形態や自分で飾りたい作品そのものの選択の余地など、より主体的で興味の深まりを促す活動の工夫が求められる。今後このような活動形態での環境づくりや個々人の鑑賞への関心をより高められる発展的な学習づくりに取り組む必要があると考えている。

【引用文献】

- 1) 平成9年度研究紀要p. 221. ～p. 226.